

平成27年度スーパーグローバルハイスクール構想調書の概要

指定期間	ふりがな	しまねけんりつおきどうぜんこうとうがっこう				②所在都道府県	島根県
27～31	①学校名	島根県立隠岐島前高等学校					
③対象学科名	④対象とする生徒数					⑤学校全体の規模	
	1年	2年	3年	4年	計	学科：普通科 154名	
普通科	58	45	32	-	135		
⑥研究開発構想名	離島発 グローバルな地域創生を実現する「グローバル人材」の育成						
⑦研究開発の概要	<p>隠岐島前地域の特性を活用し、地域が現実的に抱える地域課題の解決に挑むと同時に、海外研修をはじめ世界の地域との交流を通じて国際的素養を身に付け、将来的に地域課題と地球規模の課題を結び付けて思考でき、世界のどこにいても実践者となる「グローバル人材」を育成する。そのための研究開発として、地球規模の課題でありながら、隠岐島前地域に実在する課題でもある地域—地球共通課題を選定し、実際にローカルとグローバルとを「結び付けて」思考・実践できるプログラムとする。</p>						
⑧研究開発の内容等	<p>(1) 目的・目標</p> <p><目的> 本事業構想の目的は、グローバル人材に必要な力と位置づけている「多文化協働力」、「グローバルビジョン創造力」、「探究的学習力」、「社会的自立力」、「地域起業家精神」の基礎を3年間で構築することである。</p> <p><目標></p> <p>①生徒の将来の夢やビジョンがよりグローバルなものとなる ②実際の地域課題や地球規模の課題に取り組む生徒が増え、課題が解決された事例や解決策の導入事例が存在する ③持続可能な事業モデルとして、校内・地域に浸透し、事業終了後も継続される ④魅力的な事業モデルとして紹介され、国内の離島中山間地域に事例が導入される</p> <p>(2) 現状の分析と研究開発の仮説</p> <p><現状の分析></p> <p>⑧ 本校は、グローバルセンスとローカルセンスの両方を持ち合わせた実践者である「グローバル人材」の育成を目指し、地域での課題解決型学習やシンガポールへの海外研修など、取組は開始しているが、とくにグローバルにおいては十分な状況とは言えない。今後、地球規模の国際交流はもちろんこと、「自分」と「地域」と「地球」の課題や関係性を結び付けて思考・実践できるグローバル×ローカルの課題解決型学習を推進する必要がある。</p> <p><研究開発の仮説></p> <p>地域課題や地球規模の課題解決に挑むことで、単なる評論家ではなく、課題を抱える現場で人々とともに汗をかく当事者としての実践者が育成されると仮説を立てた。</p> <p>また、ローカルでもグローバルでも、その地域を知るという基礎的なインプットにはじまり、フィールドワークを通じて実際にその地域に存在する課題を見つけ出し、課題を解決するまでのアウトプットを一連の研究開発とすることで、目指す人材像に必要な力が育成できると仮説を立てた。</p> <p>(3) 成果の普及</p> <p>①「グローバルオリンピック（仮）」を開催し、グローバル化に係る先進的取組事例を同様の課題を抱える地域に共有できる機会を全国に先駆けて創出し、成果を普及する。 ②研究開発成果発表の機会である中間発表および最終発表は、地域住民や行政、関連企業や連携大学、全国高等学校関係者等へ広く公開する。</p>						
	⑧-1 全体						

	<p>③研究開発成果をまとめた要旨やスライド等を県内外関係諸機関（行政、大学、県内高等学校、地域内小・中学校、関連企業等）に配布し、研究成果の普及を図る。</p>
<p>⑧ -2 課 題 研 究</p>	<p>(1) 課題研究内容 地域課題としても、地球規模の課題としても取り上げることのできる以下の7つの研究テーマを課題研究とする。海外を含む先進地域でのフィールドワークなどを経て、実際の課題解決に挑む。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①The research into Community entrepreneurship（地域起業研究） ②The research into GNH（国民総幸福量研究） ③The research into Sustainability（持続・継承可能性研究） ④The research into “Yoso-mono” utilization（“よそ者”活用研究） ⑤The research into Population reduction community（人口減少コミュニティ研究） ⑥The research into Regional revitalization focusing on education(教育を核とした地方創生研究) ⑦The research into Geopark（ジオパーク研究） <p>(2) 実施方法・検証評価 <実施方法> 主として「総合的な学習の時間」と「学校設定科目」を利用して実施する。 地域・海外ともに現場でのフィールドワークや専門家へのヒアリングによる体験的・実践的な学びを推進し、少人数の課題解決型プロジェクト学習として課題研究を進める。 また、学習の一環として、PDC Aサイクルを用いて課題解決のための計画策定や実施、評価までを実社会でのビジネスシーンに近いかたちで運用する。 <検証評価> 「21世紀型スキル」の観点などを取り入れたルーブリックを用いて評価規準を明確化し、プログラムを検証・評価する。また、生徒に対して事前・事後アンケートを実施し、内容の理解度やグローバルへの関心の高まりなどを調査し、次年度の教科運営に活用する。</p> <p>(3) 必要となる教育課程の特例等 とくになし</p>
<p>⑧ -3 上 記 以 外</p>	<p>(1) 課題研究以外の研究開発の内容・実施方法・検証評価 <内容・実施方法> 探究的学習やプロジェクト型学習に欠かすことのできない情報収集力や情報分析力、論理的思考など社会的自立力の基礎を育成する。 また、シンガポールへの海外研修を契機として、英語でのプレゼンテーション技術や文章による英語コミュニケーション能力等について学ぶ。具体的な内容については、学校設定科目等で実施する。 <検証評価> 社会的自立力が育成されたかについて、自らの視点と他者の視点を交えて評価する。また、事前事後のアンケートを実施することで、生徒の理解度や成長度を検証する。</p> <p>(2) 課題研究の実施以外で必要となる教育課程の特例等 とくになし</p> <p>(3) グローバル・リーダー育成に関する環境整備，教育課程課外の取組内容・実施方法</p> <ol style="list-style-type: none"> ①海外からの生徒募集の開始および促進 ②外国人非常勤講師の雇用、外国人インターンシップ生、外国人長期研修生の受入開始 ③アクティブラーニングの導入および教員研修の促進 ④全日本寮教育協議会（仮）の発足 ⑤寮における English conversation class の実施 ⑥島前高校独自の部活動の活性化
<p>⑨その他 特記事項</p>	<p>とくになし</p>

ふりがな	しまねけんりつおきどうぜんこうとうがっこう	指定期間	27～31
学校名	島根県立隠岐島前高等学校		

平成27年度スーパーグローバルハイスクール 目標設定シート

1. 本構想において実現する成果目標の設定（アウトカム）								
	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	目標値(31年度)
自主的に社会貢献活動や自己研鑽活動に取り組む生徒数								
a	SGH対象生徒:		人	人	人	人	人	150人
	SGH対象生徒以外:		人	26人	人	人	人	人
目標設定の考え方: 全員が何らかの形で地域での地域行事参加やボランティア活動に出ることを目標とする								
自主的に留学又は海外研修に行く生徒数								
b	SGH対象生徒:		人	人	人	人	人	10人
	SGH対象生徒以外:		人	0人	人	人	人	人
目標設定の考え方: 海外研修の他に、海外先進地への現地視察に参加する生徒数を増加させる								
将来留学したり、仕事で国際的に活躍したいと考える生徒の割合								
c	SGH対象生徒:		%	%	%	%	%	50%
	SGH対象生徒以外:		%	31%	%	%	%	%
目標設定の考え方: 全体の50%を目指す								
公的機関から表彰された生徒数、又はグローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における入賞者数								
d	SGH対象生徒:		人	人	人	人	人	10人
	SGH対象生徒以外:		人	1人	人	人	人	人
目標設定の考え方: 受賞者数を増加させることと同様に、参加数を増加させ、一人でも多くの生徒が島外に出る環境をつくる								
卒業時における生徒の4技能の総合的な英語力としてCEFRのB1～B2レベルの生徒の割合								
e	SGH対象生徒:		%	%	%	%	%	10%
	SGH対象生徒以外:		%	2%	%	%	%	%
目標設定の考え方: 英検2級合格者を増加させる								
将来地域で仕事をしたり、地方創生・地域起業に係る仕事で活躍したいと考える生徒の割合								
f	SGH対象生徒:		%	%	%	%	%	50%
	SGH対象生徒以外:			32%				
目標設定の考え方: 全体の50%を目指す								

1' 指定4年目以降に検証する成果目標

		25年度	26年度	30年度	31年度	32年度	33年度	34年度	目標値(34年度)
a	SGH対象生徒:			%	%	%	%	%	10%
	SGH対象生徒以外:	%	4%	%	%	%	%	%	%
目標設定の考え方: 倍増以上を目標とする									
海外大学へ進学する生徒の人数									
b	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	3人
	SGH対象生徒以外:	人	1人	人	人	人	人	人	人
目標設定の考え方: 倍増以上を目標とする									
SGHでの課題研究が大学の専攻分野の選択に影響を与えた生徒の割合									
c	SGH対象生徒:			%	%	%	%	%	85%
	SGH対象生徒以外:	-	-	%	%	%	%	%	%
目標設定の考え方: アンケート等を用いて影響度を調査する									
大学在学中に留学又は海外研修に行く卒業生の数									
d	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	10人
	SGH対象生徒以外:	-	-	人	人	人	人	人	人
目標設定の考え方: 10人を目標とする									

2. グローバル・リーダーを育成する高校としての活動指標（アウトプット）								
	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	目標値(31年度)
課題研究に関する国外の研修参加者数								
a	人	45人	人	人	人	人	人	60人
目標設定の考え方: 2学年全員								
課題研究に関する国内の研修参加者数								
b	人	5人	人	人	人	人	人	30人
目標設定の考え方: まず、国内の研修機会を創出し、毎年各学年10名ずつは国内研修に参加できるようにする								
課題研究に関する連携を行う海外大学・高校等の数								
c	校	2校	校	校	校	校	校	5校
目標設定の考え方: 海外研修におけるシンガポール国立大学とイェール大学との連携のみとなっているが、拡大する								
課題研究に関して大学教員及び学生等の外部人材が参画した延べ回数(人数×回数)								
d	人	161人	人	人	人	人	人	200人
目標設定の考え方: 倍増を目標とする								
課題研究に関して企業又は国際機関等の外部人材が参画した延べ回数(人数×回数)								
e	人	567人	人	人	人	人	人	600人
目標設定の考え方: 倍増を目標とする								
グローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における参加者数								
f	人	2人	人	人	人	人	人	30人
目標設定の考え方: グローカルオリンピックを主催し、公益性の高いものとし、本校生徒の積極的な参加を目標とする								
帰国・外国人生徒の受入れ者数(留学生も含む。)								
g	人	2人	人	人	人	人	人	10人
目標設定の考え方: 海外での生徒募集説明会を契機に10人程度の受入を目標とする								
先進校としての研究発表回数								
h	回	2回	回	回	回	回	回	4回
目標設定の考え方: 四半期に一回程度実施する(中間発表等含む)								
外国語によるホームページの整備状況								
○整備されている △一部整備されている ×整備されていない								
i		×						○
目標設定の考え方: 整備する								
(その他本構想における取組の具体的指標)								
j								
目標設定の考え方:								

<調査の概要について>

1. 生徒を対象とした調査について

	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
全校生徒数(人)		154	0	0	0	0	0
SGH対象生徒数							
SGH対象外生徒数							